

# 父と子が“一緒”だからこそ楽しめる活動を実践

活動地域（徳島県板野町）

## 男性のプロフィール

氏名：服部 大輔さん

年齢層：若年層（20～30歳代）

活動概要：平成20年、パパサークル「お父さんといっしょ」を立ち上げ、父親と子どもと一緒に楽しめる活動を実践している。

## 活動開始のきっかけ

### 実際に苦労して、初めて気付く。父親が子育てする際の障壁

私がパパサークル「お父さんといっしょ」という活動を開始したのには大きく3つの理由があります。

一つ目は、妻が双子を出産した際に半年ほど入院したこと。その時、仕事と家事の両立に大変苦労しました。二つ目は、「男は仕事、女は家庭」というかつての文化が、「男性の家庭参画、子育て参画」に変わり、必要に迫られて子育てをする父親が増えてきたのに関わらず、「違和感」や「やりづらさ」を感じるが多々あったこと。三つ目は、この思いに同感する友人・知人が身近に数名いたことです。

「違和感」と「やりづらさ」に関しては、例えば母子向けの雑誌やママサークルはあるのに、父子向けのものはないため、父親には情報を得る手段が乏しいことなどから感じていました。また、公園で遊ぶ場合も、PTAも授業参観も、小児科受診も母親が主体です。育児手当の申請に役所へ行くためには、平日に有休をとらなければなりません。

これらは、自分が当事者になって初めて気付いたことで、そのとき、どこの父親も同じリスクを抱えているのではないかと、ならば気付いた人間が何らかの発信をすべきではないかと感じたのです。

そこで、とりあえず、私の友人・知人に声をかけて協力を募ると、同じ思いを持つ人が賛同してくれました。これらの友人・知人の存在が、パパサークル「お父さんといっしょ」の設立につながりました。また、設立当初は当サークルでイベントを行おうとしても、信頼性の面で立場が弱く、イベント会場の確保さえ困難でしたが、徳島県民活動プラザを頼り、その「後援」を得たことで、活動の第一歩を踏み出すことができました。

## 活動の内容

### 「父親を楽しみたい」、「子育ての楽しさを伝えたい」という思いで活動

「お父さんといっしょ」の代表として、平成20年6月から不定期で活動しています。当会では、「父親を楽しむ」、「子育ての楽しさを知ってもらおう」をビジョンに掲げ、父親と子どもと一緒に過ごせる機会を設定することで、子どもと触れ合うことの楽しさや育児の大変さを認識し、父親が家事・育児に参加・参画するきっかけとなることを目指しています。具体的には、大人だけでも、子どもだけでも味わえない、「父親と子どもが一緒」だから味わえる行事を企画し、バーベキューや磯遊び、手作り料理体験などを行っています。

また、父親の育児に関する交流会や研修会、他のパパサークルとの交流会、地域の子育て支援活動団体が開催するイベントなどにも参加し、情報交換をしています。

#### ◇これまでの主な取り組み◇

- 平成21年2月 お父さんと作る♪親子で手作り水餃子
- 平成22年11月 父と子三輪車1時間耐久レース
- 平成23年1月 パパといっしょに筆遊び
- 平成23年2月 パパ講座（パパの絵本読み聞かせ＆パパを楽しむ極意）
- 平成23年12月 知事とわいわい

## 「達成感」、「参加者の評価」、「出会い」がやりがいに

父子を持つ一般の方を対象にイベントを開催して、そこで得られる達成感・充実感、参加者からの喜びの声、新たな領域での人との出会いが、私にとって活動をする上での楽しさとなっています。

また、サークルメンバーから得られる子育て情報や経験を、即、自分の家庭に活かすことができることも、活動のメリットであると思います。

### 周囲との関わり

#### 家族や友人、職場の理解、行政や関係団体の支援が不可欠

家族や友人、職場の理解と、行政やNPO団体などの支援が得られたことに感謝しています。

友人であるサークルメンバーの理解を得るためには、多くの時間を要しました。徳島県の地域子育て施策である「いきいき子育て応援団育成事業」に応募するかどうかや、応募するのであれば具体的に何を実行するか、などについて話し合ったときには、仲間と何時間も、何日もかけて意見の調整を図りました。その結果、理解を得られた友人は全面的にサポートしてくれています。職場からは、「仕事に影響のない範囲であれば」と言ってもらっています。行政は、徳島県子ども未来課や男女参画青少年課などが相談に乗ってくれました。サークルの活動を信頼し、サポートしてくれたことは大きな支えになりました。さらに、NPO法人「子育て支援ネットワークとくしま」からも多くの支援や助言が得られたため、活動をスムーズに進めることができました。

### 直面した課題と解決方法

#### 活動の進め方を見直し、自分たちにできることを「ぬるくゆるく」実践

課題は、仕事との両立、時間的余裕、モチベーションの維持などが挙げられます。

活動しているメンバーは、20代～30代の働き盛り。仕事は忙しく、家庭でも家事・育児をしっかりとこなしているため、活動するには自分のための時間を削るしかありません。また、小学生になると休日に習いごとをする子どもが増えてくるので、その送り迎えや付き添いのため、メンバー全員が揃うことはまずありません。活動したくても余裕がなくてかなわず、遠ざかっていくメンバーもいます。イベント開催時など、負担が主要メンバーに集中してしまい、体を壊してしまうメンバーも出てしまいました。

このままでは団体を継続できないと思い、サークルの存続を重視することにしました。「月2回集合」、「いつかはNPOを目指す」など、当初に高く掲げたハードルを、「自分たちのできることを、できる範囲でやる」に直し、モットーは「ぬるくゆるく」としました。今では、1年に1回、活動に参加してもらえれば、嬉しいと思っています。

### これからの展望

#### たくさんの「お父さんを楽しめる場」づくりに励みたい

これまでの活動を通じて、メンバーは「自己成長」、「新たな社会とのつながり」、「自分の居場所（存在価値）」を見出してきています。また、活動に参加してくれた人からの感謝の言葉、大きな山を越えたときの達成感や充実感、たくさんの人との出会いなど、「お金で買えない幸せ」を手に入れることができました。今後、行政には、皆で連携できる環境づくりの構築を期待しています。現在、活動している団体は、情報に飢え、体力（時間・費用・人材）に余力がないと思うからです。

個人としては、「男性の意識改革、男性の働き方改革」を行うとともに、「男性が育児休業を取りやすい環境」の整備に尽力したいと思っています。今がその絶好の転換期であり、最後のチャンスとも思っています。サークルとしては、たくさんの「お父さんを楽しめる場」をつくっていきたいです。